

# 京都・伏見で酒ツーリズムの しくみをつくる

## 1 目的・概要

本プロジェクトでは、ゴールとして「多酒多様」というテーマで、多角的に伏見と日本酒について触れてもらうツアーを実施しました。具体的には、「日本酒を伏見という土地の魅力と関連づけながら、『飲む』以外の多角的な視点から捉えてもらう。日本酒に馴染みのない人にも親しみきっかけとなるようなツアーを作る。」というコンセプトを設定しました。酒蔵や地域の方へのインタビュー、調べ学習を通し、日本酒の効果や酒造りへの想い、伏見という土地の魅力を学ぶ中、日本酒の「飲む」以外の多角的な魅力を私達自身、体感しました。日本酒に馴染みのない方でも、きっかけが様々にあることで、親しんでもらえたらという想いのもと、このように設定しました。ターゲットは、「京都に住むあるいは京都の大学に通う大学生」に限定し、日本酒の若者離れという問題に、身近な同じ大学生という利点を活かしてアプローチしながら、京都が身近であるのに、伏見に関わりの少ない人に足を運んでもらおうと考えました。このような方向性のもと、春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつ試作ツアーを行い、その都度改善点を話し合いながら、12月初旬に一般の学生12人を募る最終ツアーを2日間に渡って実施しました。参加者募集は、ポスターを制作し立て看板にして掲示したり、SNSでの告知を行ったりしました。また、しおりやこれまで行ってきたインタビューのまとめ、調理実習で実際作ったもののレシピまとめを作成し、参加者に配布することでより日本酒についての多角的なアプローチができるように工夫しました。



### Annual Schedule

2021年	4月	プロジェクト開始 第1回フィールドワーク
	5月	伏見・日本酒に関する情報収集 プロジェクトメンバーでオンライン飲み会開催
	6月	緊急事態宣言によりプロジェクトがオンライン化 プロジェクトのコンセプト決定 同志社大学2021年度プロジェクト科目「京都・伏見で酒ツーリズムのしくみをつくる」公式Twitter「酒粕かす子」、公式Instagram「伏見 酒プロジェクト」開設 まいまい京都阿比留優子さんによる京都でのツアー企画・ビジネスについての講座受講 プロジェクトが再び対面で始動 ハナクリニック石久保亮先生によるアルコールリテラシ講座受講 ふる～酒さんへインタビュー 春学期成果報告書作成・春学期成果報告会準備
	7月	第1回試作ツアー実施・参加者事後アンケート実施 招徳酒造さんへインタビュー

	8月	ツアーのコンセプト・ターゲット見直し 第2回フィールドワーク AMAZAKEHOUSEさんヘインタビュー おこぶ北清北澤さんご夫妻ヘインタビュー	
	9月	酒粕調理実習 第3回フィールドワーク 北川本家さんヘインタビュー プロジェクト担当者（江口崇先生）のオンラインイベント参加 藤岡酒造さんヘインタビュー 日本酒 freestyle 松田健太郎さんヘインタビュー	
	10月	第4回・5回フィールドワーク 御香宮神社さんヘインタビュー	
	11月	第6回・7回フィールドワーク 第2回試作ツアー実施・参加者事後アンケート実施 「多酒多様ツアー」開催をSNSとポスターで告知 「多酒多様ツアー」参加者申し込みフォーム実施開始 「多酒多様ツアー」リハーサル・第8回フィールドワーク	
	12月	ロバート・イエリン焼物ギャラリーロバートさんヘインタビュー 「多酒多様ツアー」開催、参加者事後アンケート実施 成果報告書作成・秋学期成果報告会準備	
2022年	1月	秋学期成果報告会	
	2月	プロジェクトの関係者、インタビュー先へ成果物配布	

## 2 成果達成度

春学期は知識の獲得として、酒蔵や地域の方へのインタビューをするほか、ツアーやアルコールについての講習を受講しました。このように多くのことを学ぶ中、コンセプトやターゲットを具体化していき、「多角的」と「若者」というキーワードのもと、活動方針を定めました。またSNSを開設し、私たちのツアーづくりの過程を発信することで日本酒についての関心を高められるようにしました。試作ツアーも実施し、課題として「多角的だからこそ伏見と日本酒という軸からぶれる」、「自由時間が長い」、「参加者同士の交流機会の不足」が上がりました。また、夏季休暇には調理実習やインタビューも継続して行うなど、秋に向けての情報収集に努めました。



秋学期は春学期の試作ツアーの反省や新たに獲得した知識を活かし、より良いツアー作りを目指しました。秋学期の試作ツアーでは次のことを意識し、改善しました。まずツアー内の多角的という視点を日本酒と伏見に関連する4つに分類することで、参加によりわかりやすく、私たちも軸を忘れずに伝えやすいようにすることです。分類と訪れた箇所は、1 日本酒に大切な水と地域色の強い神社（御香宮神社）、2 酒造りと関わる人々の想い（月桂冠大倉記念館）、3 港町としての伏見と幕末の歴史（寺田屋）、4 酒粕などの食文化と日本酒（月の蔵人）です。次に自由時間はお土産を見る時間のみにし、月桂冠大倉記念館での説明をそのスタッフの方をお願いしました。月桂冠大倉記念館と月の蔵人では、事前に何度も日程や時間の調整、打ち合わせを行うことでスムーズにツアーが進むようにしました。最後に交流の機会を増やすために、事前にトークテーマを用意し、双方向のコミュニケーションを大事にしました。春学期の改善を活かし、参加者からも「多角的に魅力が伝わった」との声をいただきました。

最終ツアーに向けては前回の試作ツアーを得て新たな工夫や微調整、そして告知を行いました。ま

ず新たな取り組みとして、前回部分的に使用したスケッチブックがわかりやすかったため、全スポットでスケッチブックを用いた説明やクイズを取り入れました。また、月桂冠大倉記念館でのガイドをスタッフの方にお願いと企業情報が多いとの意見を踏まえ、全て自分たちで行うことにしました。微調整としては、ガイドと参加者の判断がしづらい、名前が覚えられないという問題を解決するため、全員名札を使用し、ガイドと参加者で紐の色を変えました。また、スムーズな連絡が取りやすいように、オープンチャットを作成し、事前に参加をお願いしました。告知はポスターを制作し、立て看板の設置とSNSで行いました。最終ツアーの結果としましては、当日参加した10名のツアー満足度が4.8/5、コンセプトへの適合度4.8/5というように大変いい声がいただけました。また、「お酒に慣れた人が嗜むイメージがあったけど、より日本酒を身近に感じるようになった」、「伏見と日本酒の深い関わりを知ることができた」、「違う角度からの日本酒について学べた」、「お酒を飲めない人でも楽しめた」、「親しく話しかけてくださったので心底ツアーが楽しめた」、「また伏見に行きたくなった」などと言った多くの感想をいただくことができました。

## 3 プロジェクトを通じて

コンセプトやターゲットを決めるのに多くの時間を使った分、共通認識をきちんと持ち続けながらツアー作りが出来たと思います。「多角的」というテーマだからこそ難しさはありましたが、方向性がずれそうになる度、メンバーで話し合い、軌道修正することが出来ました。また、インタビューも積極的に行うことで、私たちが伝えたいこと、参加者が楽しめることに加え、酒蔵さんや地域の方が伝えたいことを盛り込んだツアーができたように感じます。最終ツアーでは参加者にコンセプトを感じてもらい、多くの嬉しい感想をいただけたことも嬉しく思います。また、ガイドの説明や進行のスムーズさ、親しやすさなども褒めていただき、試作を繰り返して細部までこだわった甲斐があったと感じました。大変なこともありましたが、このメンバーで協力して1年間取り組めてよかったです。



### 編集後記

春学期と秋学期に1回ずつ試作ツアーを行い、試行錯誤を重ね本番のツアーを作り上げることができました。本番のツアーでは、私たちが伝えたい思いを参加者の皆様にも感じてもらうことができ、満足のいくツアーを実施することができました。

日本酒を飲むだけでなく、多様な見方をすることができたのは、プロジェクト科目を通して実際に伏見の街に行き、多くの方から貴重なお話を聞くなどの経験をしたからです。とても充実した1年間になりました。

最後になりましたが、コロナという社会状況の中で、本プロジェクトに協力して下さった全ての関係者の皆様へ心より御礼申し上げます。

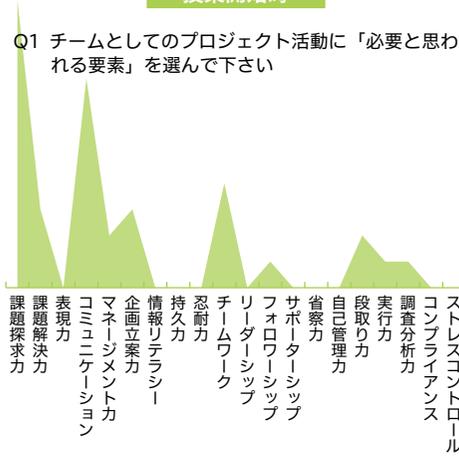
### プロジェクトメンバー

小関 暖花(文3) 中川 真緒(文3) 武本 涼佳(社会2) 藤田 悠我(法4) 廣内 妙玲(経済2)  
岩瀬 加子(経済2) 佐藤 菜緒(商2) 吉川 青葉(政策2) 東山 由佳(文化情報3)  
竹原 美月(グローバル地域文化3) 小池 香乃(グローバル地域文化2)

## プロジェクト活動 アンケート集計結果

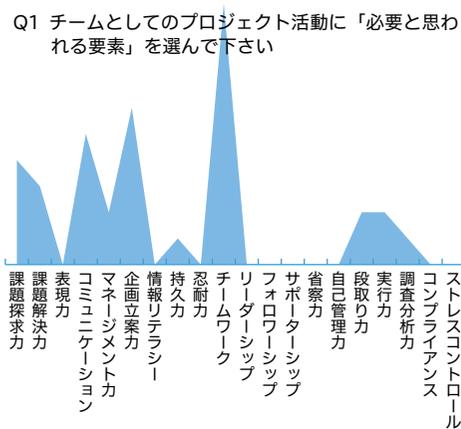
### 授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

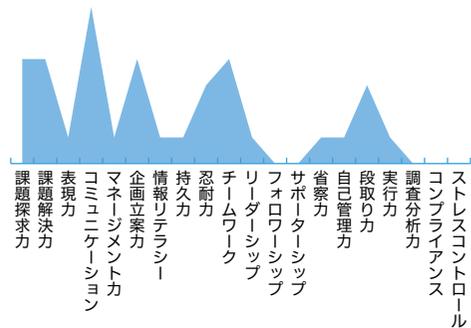


### 春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

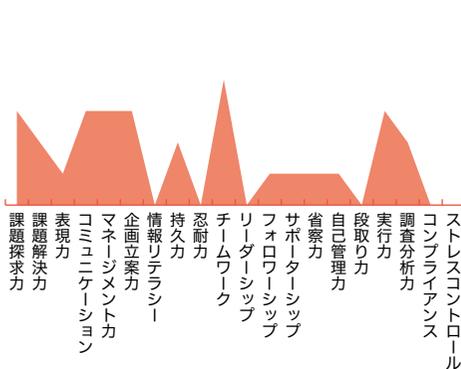


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



### 授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

